

2021年10月6日

## 横浜ゴム、ゼンリンとタイヤ内面貼り付け型タイヤセンサーを使った実証実験を開始

横浜ゴム（株）は、（株）ゼンリンの協力を得て当社が開発中のタイヤ内面貼り付け型タイヤセンサーの実証実験を開始しました。実証実験用の車両を用意し、日本全国で実施します。

本実証実験は、横浜ゴムが開発中のタイヤセンサーとアルプスアルパイン（株）が開発した車載器を、ゼンリンの協力のもと実証実験用車両に取り付け、タイヤ内面貼り付け型センサーの市場耐久性の確認及び、車両に搭載する車載器によるタイヤ空気圧の遠隔監視システム（Tire air Pressure Remote access System = TPRS）の検証・構築を行います。また、空気圧情報と GPS 情報による位置情報をゼンリンが有する豊富な地図情報との連携により、新たな付加価値を提案するタイヤビジネスの実現を目指します。

当社の「TPRS」は、CASE<sup>※1</sup>、MaaS<sup>※2</sup> など自動車業界の変革に対し、タイヤメンテナンスの省力化や精度の高いタイヤ管理、効率的なメンテナンス計画など車両管理者にとっての有効性を探るとともに、安定的な安心・安全運行や燃費向上など車両保有者にとってのメリットを検証し、ドライバーの安全性や経済性の向上に貢献するビジネスモデルの確立を目指します。

「TPRS」はタイヤの空気圧や温度、車両の位置情報をリアルタイムでリモート監視することができるシステムです。タイヤメンテナンスの大幅な省力化に加え、点検のバラツキ防止、異常検知による事故防止、適正な空気圧維持による燃費向上などに貢献し、検知データはリアルタイムでクラウドサーバーに保存します。

横浜ゴムは 2021 年度から 2023 年度までの中期経営計画「Yokohama Transformation 2023（YX2023）」（ヨコハマ・トランスフォーメーション・ニーゼロニーション）における CASE、MaaS への対応策として、センシング機能を搭載した SensorTire（IoT タイヤ）の開発と機動的なサービス力の強化による新たなタイヤソリューションサービスの展開を掲げています。2 月には乗用車用タイヤセンサーの中長期的な技術開発ビジョン「SensorTire Technology Vision」を発表し、IoT タイヤから得られた情報をドライバーや様々な事業者に提供することで新たなモビリティ需要の変化に対応しつつ、安心・安全な運行に持続的に貢献することを目指しています。この実現に向けた活動の一環として、異業種との実証実験を行っています。

※1：Connected（コネクテッド）、Autonomous（自動運転）、Shared & Services（カーシェアリングとサービス/シェアリングのみを指す場合もある）、Electric（電動化）の頭文字をとった造語

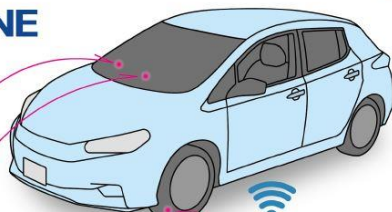
※2：Mobility as a Service の頭文字。地域住民や旅行者の移動ニーズに対応して複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済などを一括で行うサービス

## Tire air Pressure Remote access System

SIM・GPS 搭載 車載通信器

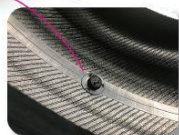
空気圧、GPS 位置情報

ALPS/ALPINE



ドライバーは常にタイヤ空気圧の確認が可能。異常時はアラート表示と音で警告。

車載表示器



空気圧情報を、車載通信器および車内に設置する表示器に送信し、車両管理者とドライバーの双方が空気圧異常を早期に感知し安全性を向上

タイヤ内面に空気圧センサー

データの送信



複数の車両の空気圧状態と走行履歴を車両管理者が一括確認

ZENRIN  
YOKOHAMA

本リリースの写真・イラストなどは開発中のものです。実際の製品・仕様とは異なる場合がございます

このリリースに関するお問い合わせ先  
横浜ゴム（株）経営企画部 広報室 担当：池田  
TEL：03-5400-4531 FAX：03-5400-4570